MMA Weekly Report

★★ 日経平均株価 ★★

By Raymond A Merriman

投資日報出版（株）

コピー対外配布厳禁

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町３丁目12番11号GRANDE人形町６階

No. 1170 Feb.17 2020

TEL 03-3669-0278 FAX 03-3668-4444

１．回顧

先週の相場は前週比140ポイント安の23,687。週の高値は13日（木曜日）の23,908、週の安値は14日（金曜日）の23,605。週のレンジは週間下値支持線と上値抵抗線の間を推移していたのでニュートラル。更にこの引け値は、週間トレンドインディケーターポイント（ＴＩＰ）は６週中５週上回っていたが、基調は“ニュートラル”としたい。

２．サイクルズ

昨年発売された『フォーキャスト2020』の中でも解説しているが、日経平均株価は17年周期の長期相場サイクルが存在していると見ている。その起点は2008年10月28日の6,994。本年は起点から12年目となる。

17年サイクルは8.33年サイクルで２分割され、2016年６月24日の14,864と同年２月12日の14,865との“ダブルボトム”で前半が終了。ここから後半（第２－8.33年サイクル）が始まっている。

更に、前者から34カ月目、後者から30カ月目に出現した安値が2018年12月26日の18,948。全てのサイクルは、内包するサブサイクルで２分割、ないし３分割されるのだが、8.33年サイクルが３分割されているのなら、この18年12月の安値は第１-33カ月サイクルボトムであったという見方になる。もしそうであれば、今月は第２-33カ月サイクルの14カ月目という事になる。

また週足サイクルは、先週のレポートで現行ＰＣ（通常の日柄は12～20週）の起点に関して２つの見方が存在。１つ目は昨年８月の安値（８月６日、15日、26日）をトリプルボトムとし、その内26日の20,173を起点としたＰＣが、そこから本年１月８日の22,951をもってボトムをつけ、ここから新ＰＣ入りしているという見方。もう１つは１月８日にボトムをつけずに延長ＰＣとなってボトムを模索。トリプルボトムから23週目にあたる２月３日の22,775でボトムを形成、ここから新ＰＣ入りしているという見方である。現時点では後者の見方が有効と見られる。もしそうであれば今週はその２週目であり、「サイクルの序盤は強気」の原則に則って目先の相場基調は強いと思われる。

ＰＣのサブサイクルは、通常であればその大半が３つのMC（４～６週）で構成される３位相パターンか、２つのハーフＰＣ（通常７～11週）で構成される２位相パターンのどちらかになる。仮に２月安値からの新ＰＣが３位相パターンで構成されるのであれば、目下相場は第１MCの天井に向けて上昇中である公算が高い。そして現在、24,000～24,120付近にある目先の上値抵抗に接近している。この値位置は昨年12月17日と本年１月17日に記録した高値でダブルトップの線形になっているかも知れないと思われていたゾーンである。超え切れれば強気型ＰＣである事が強力に示されると同時に、少なくとも起点から向こう８週間はこのＰＣの天井は出現しない、という可能性も強力に示される事になるだろう。実際、日柄の若さから考えると目先の上値抵抗を突破する可能性は高い。とはいえ、抵抗突破場面が現行MCの天井形成場面で出現するか、第２MCの天井形成場面で出現するのかについては未だ不明だ。

その一方で、目先の上昇場面で１月17日の高値（24,115）超えに失敗した場合は最初に提示した見方、即ち現行ＰＣの起点が２月３日ではなく１月８日であった可能性が高まるだろう。この見方で現行相場をみた場合、２月３日の安値は22,775なので、既にＰＣの起点を割り込んでいる事になる。

そしてこれは、現行ＰＣの基調が弱気に転換した事を意味している。弱気ＰＣにおける最安値はこのＰＣが終わる時、つまりＰＣボトム形成場面まで出現しない。その間相場は高安値共に切り下がりの線形になる。そして今週はその６週目。更に起点から４週目に出現した２月３日の安値は第１ＭＣボトムであったと見るべきであろう。従って今週は第２ＭＣの２週目でもある。先述の通り、弱気ＰＣの最安値は常に終点なので、１月 17 日の高値は現行ＰＣの天井であり。日柄余地を考えると向こう６～14 週間ＰＣボトムに向けた高安値切り下がりの値動きが続く事になるだろう。恐らく、第２ＭＣは２月６日の 23,995 で天井をつけたものと思われる。そして第２ＭＣがボトムをつける過程で、２月３日の 22,775 は割り込まれる筈である。ＭＣボトムは今後２～５週間以内に出現するのではないだろうか。

以上の事から、目先の相場基調は（２月安値起点の強気ＰＣとして）１月 17 日高値 24,115 を超え切るか、（１月安値起点の弱気ＰＣとして）２月３日安値 22,775 を割り込むかのどちらかで大きく変わってくる。そして、どちらの展開になるかが判明するまで、強弱どちらのＰＣの見方が正しいのかは判らない。

現行ＰＣの起点が１月と２月のどちらなのか、その違いによって長期相場サイクルの見方も変わってくる。以前からの記述も含め、先週のレポートではこう述べていた“…この手の不規則且つ奇妙な値動きを伴う相場変動は、しばしば何らかの長期相場サイクルがボトムをつける際に見られる現象として知られている。冒頭でも述べたように今月は第２−33 カ月サイクルの 14 カ月目。以前から我々は、このサイクルに内包している 16 カ月サイクルが 2020 年５月±３カ月の何処かでボトムをつけると指摘していた。今月からその時間帯に入っている。…33 カ月サイクルは、２つの 16 カ月サイクルで構成されていると見ている。…しかし当レポートでは以前、長期相場サイクル基調の強弱が判然としなかった際、8.33 年サイクルが４年サイクルで２分割されている可能性も提示していた。その際、このサイクルは３つの 16 カ月サイクルで構成される事になる。この見方だと、18 年 12 月の安値はあくまで２つ目の 16 カ月サイクルに過ぎず、そこから３つ目の 16 カ月サイクルボトムが出現し、その際に 18 年 12 月安値を下回る事になる。今月は 18 年 12 月安値から 14 カ月目なので、依然としてこの見方を完全否定する事が出来ない。…以上の事から、現在は日柄的に見て（１月なのか２月なのかという）正しい現行ＰＣの起点、（第１なのか第３なのかという）正しい 16 カ月サイクルの存在、そして現行 8.33 年サイクルのサブサイクルが 33 カ月サイクルか４年サイクルかという正しい把握を明確化する上で重要な分岐点に位置していると言って良いだろう”。従って、現行 16 カ月サイクルに向けた下降局面が極めて厳しいものであった場合、これは（33 カ月サイクルに内包する）第１―16 カ月サイクルではなく、（４年サイクルに内包する）第３―16 カ月サイクルである可能性は否定出来ない。なお、これについては「MMAサイクルズレポート」の中で詳しく述べたいと思う。

３．ジオコスミックス（天体位相の分析）

ジオコスミック面では８つの重要なジオコスミックシグナルを含んだ新たな時間帯が（米国時間）２月 16 日から３月９日まで続く。この時間帯は水星の逆行開始と共に始まり、逆行終了（順行）とともに終わる格好になるのだが、この期間中には多くの金融市場に大きな相場反転をもたらしかねない強力なジオコスミックシグナルが含まれている。従ってこれからの３週間の中で現行相場の正しいＰＣ位相が恐らく浮き彫りになってくるのではないだろうか。

（米国時間）２月 16 日は、水星が逆行を開始する日だけではない。同日火星は山羊座に入居する。

水星逆行期間が不安定（erratic）な時間帯であるという事については、このレポートの読者であれば充分理解されておられる事だろう。テクニカル分析における売買シグナルにはダマシが生じやすく、それ故に目先の上値抵抗や下値サポートは一時的に打ち破られやすい。また、ダマシと呼ぶべき事象ではないかも知れないが、往々にしてこの期間中は各国の政治指導者及び中央銀行から矛盾した発表、あるいは驚くべき発表が飛び出しやすい点も水星逆行期の特徴といえる。更にこの期間中に下された決定事項は、行動に移す上で正当化するべき充分な情報を集める事なく進められた事象であり、後々になって修正する必要が出て来る事が少なくない。加えて、今回の水星逆行は魚座内で始まる。この組み合わせはしばしば事実の正確性に課題が求められる事が少なくない。従って、投資家だけでなくトレーダにとっても今回の水星逆行は混乱の時間帯になるかも知れない。

また火星の山羊座に入居している時間帯では、往々にして中央銀行も新たな政策を発表する頻度が高いとされる。そのため、不確実性が高く疑念を生じさせかねない行動を、各国の政治および金融当局の指導者たちが起こす可能性が今回の水星逆行では高くなるのではないか、と我々は睨んでいる。更にこれを原因として、各種金融市場に短期且つ急激な価格変動を引き起こしかねないとさえ我々は考えている。実際そうなった場合、この手の価格変動は１～４営業日ごとに出現するのが通常とされている。

ただ、長期ジオコスミック要因に基づく我々の長期相場サイクル見通しについては、以前からこう述べている“(2019 年 11 月の)「MMAサイクルズレポート」の中でも報告したように、1900 年以降のデータを検証した結果、木星が射手座の 10 度から山羊座の 20 度まで運行している場面の何処かで長期相場サイクルは確固たる高値を形成していることが明らかになった。これを現在の天体運行に当てはめると、2018 年 12 月 21 日から 2020 年 10 月 31 日までとなる”。木星は 2019 年 12 月２日に射手座から山羊座に移ったが、これまでこの期間中に出現した長期相場サイクルの天井の半分が木星射手座入居中に確認されていた。そして、残りの半分は木星が山羊座の 20 度に最初に通過した時間帯までに出現している。2020 年中、木星の運行は山羊座の 20 度を３度通過する。本年最後の通過は 10 月 31 日、最初の通過は３月９日である。つまり上記の記述から鑑みて、現行相場は３月９日までに何らかの節目となる高値が出現する可能性が出て来ている。しかし、それは１月 17 日の 24,115 であったかも知れない。何故なら、この高値が出現する直前、１月 12～13 日にかけて土星と冥王星がコンジャンクション（０度）の関係にあったからだ。

ただし、これ以外に長期相場サイクルの基調が反転する確率が高そうな別の時間帯として、今年の金星逆行期間（５月 13 日～６月 25 日）を挙げる事が出来るだろう。実際、日経平均株価が長期相場サイクルの天井をつけた場合、（2021 年２～12 月月に３回シリーズで出現する）土星・冥王星スクエア（90 度）を要因とする、2021～2023 年に出現するであろう長期相場サイクルボトムに向け、この相場は何処かで大きな下げがあるのではないか、という見通しを、我々は未だに崩していない。

４．目標値及びパターン

以前から述べている通り、私自身は 2018 年 12 月 26 日の安値（18,948）が長期 16 カ月、及び 33 カ月サイクルの起点であったという見方を現在に至るまで貫き通している。実際にそうであった場合、相場は今後 1991 年 11 月以来の高値水準であった 2018 年 10 月２日の高値 24,448 を試すか、場合によっては上回る可能性すらあるだろう。

先述の通り、相場は１月 17 日に 24,116 を記録。昨年 12 月 17 日の高値 24,091 を上回っていた。実際、値位置的には 18 年 10 月高値を試しにかかっている事に変わりはないが、現時点で上回る事は出来なかった。その一方で、米国株式は同じく１月 17 日に史上最高値を更新。更にその後も強く、これにより日米株価指数間での「異市場間弱気ダイバージェンス」発生のフラグが立った格好となっている。

仮にここからの相場展開において、この再テストエリアが突破された場合、28,532±1,613 に現行 16 カ月サイクルの天井目標値が設定されよう。ただし、今後数カ月以内に 24,448 超えに失敗した場合、４年サイクルボトムに向けた急落場面が出現する可能性が出て来る。この見方であれば 2020 年５月±３カ月の何処かで（第３－16 カ月サイクルボトムと共に）ボトムが出現するという見方になるだろう。更に、１月 17 日高値（24,116）が現行 16 カ月サイクルの天井であった場合、21,532±610 に修正安目標値が設定される事になるだろう。なお、現時点で確認されているＰＣボトムは昨年８月に 20,110～20,173 の間で出現したトリプルボトムであった。この値位置もまた、現行 16 カ月サイクルボトムのサポート水準として有効と言える。しかし、今後の相場がこのサポート水準を割り込んだ時点で、現行 8.33 年サイクルが４年サイクルで２分割されている可能性が再度復活するだろう。それは即ち、現行相場が先述の 18 年 12 月安値を再度試しにかかる可能性が出て来る事を意味する。なお、上記 18 年 12 月に 33 カ月サイクルボトムが出現して以降、最も急激な下降局面は高値から 10%に及ぶものであった。現行 16 カ月サイクルがボトムをつける際、１月 17 日の高値から少なくとも 10%程度の下げがあるのではないかと我々は睨んでいる。実際にこの読み通りであれば、目先の相場は少なくとも 21,705 付近までは下がる、という計算になる。

その一方で、昨年 12 月 17 日と本年１月 17 日の高値に起因する 24,091～24,115 のダブルトップエリアは現在、強固な上値抵抗となっている。目先の相場基調が強気トレンドに復帰するためには、このエリアを突破してここまでの弱気チャートパターンを崩す必要があるだろう。それが実現出来た場合、23,525±540 に設定されていた値位置が、依然として現行 16 カ月サイクルの天井目標値として機能する事になるだろう。

なお、当レポートでは以前からこう述べている“…目先の相場が 24,091 よりも 1.5%以上の値位置を超え切れなかった場合、現行ＰＣ、並びに現行 16 カ月サイクルのボトムに向けた急激な下降局面が始まろうとしているシグナルになるだろう。現状、１月中の最高値は 17 日の 24,115。これは値位置的に昨年 12 月高値（24,091）とのダブルトップチャートフォーメーションのレンジ内にあたる。注意したいのは、長期相場サイクルが天井をつける際、往々にして相場はダブルトップの線形になりやすいという点。そのため、目先の相場展開に我々は警戒する必要がある”。

この警戒は依然として有効である。

なお、先月末以降の日足ではギャップが多く見受けられた。１月 24 日～27 日にかけて相場は 23,463～23,755 で強力なギャップダウンが生じていた。

更に２月に入ると４～５日に 23,118～23,241、５～６日に 23,414～23,625 と２回、強力な“ギャップアップ”が見られた。先週の安値は 14 日の 23,603 であったが、今週 17 日の寄付きが 23,603 以下で始まった場合、週足ベースでの“ギャップダウン”が生じる危険性がある。

それだけではない。仮に今週の寄付きでギャップダウンした場合、日足では「弱気アイランドリバーサル」の線形になる。これは目先の相場が深刻な下降局面に陥る前兆として出現するチャートパターンである。具体的にはそれ以前に発生していた“ギャップアップ”の水準を跨ぐようにして“ギャップダウン”する現象のことを指す。

先週のレポートでは“テクニカル的に見て、このギャップの内低い方の下限（23,118）を引け値で割り込まない限り、基調は強気と見なされよう”と述べていた。しかし、今週の寄付きで 23,603 を割り込んで“ギャップダウン”した場合、前週の“ギャップアップ”に伴う強気見通しにとって代わるような新たな弱気見通しが発生しよう。

なお、日足移動平均は先週 13 日移動平均（23,455）が 39 日移動平均（23,688）を下回っていた。しかし、実勢相場は引け値で両平均の間に収まっていた。従ってこれは、日足で見た相場基調が依然として“ニュートラル”であるという事を意味している。ここから 13 日平均が 39 日平均を上回り、尚且つ相場が両平均を上回ると、基調は“強気”に格上げされるが、現在の状態のまま相場が引け値で両平均を下回ると、基調は“弱気”となろう。

一方、週足移動平均は先週も 24 週移動平均（23,030）が 39 週移動平均（22,285）を上回っており、実勢相場も引け値ベースで両平均を上回っていた。従ってこれは、長期トレンド基調が依然として“強気”であるという事を意味している。ここから相場が両平均を下回ると、基調は“ニュートラル”に格下げされ、更にその状態の中で 24 週平均が 39 週平均を下回ると、基調は“弱気”へと格下げされよう。

15 日スローストキャスティックスは先週末の時点で％Ｋ＝82.91 が％Ｄ＝80.27 を上回っている。仮に今後％Ｋが％Ｄを下回り、尚且つ 71％を割り込むと基調はより弱気になる。現時点で基調はまだ強気ではあるものの、転換する危険性が高まっている。

もっと懸念されているのが 15 週スローストキャスティックスの動向だ。この指標は先週末の時点で％Ｋ＝53.50 が％Ｄ＝71.67 を下回っている。明確に両指標は下値を指向しており、これは弱気を示唆している。２月３日の安値が延長ＰＣボトムにして現行ＰＣの起点ではなく、１月８日の安値を起点とする弱気ＰＣ内の第１ＭＣボトムに過ぎない、という見方の根拠になっているのがこの週足ストキャスティクスの動きである。ただし、指標の一部は 42～58％のニュートラルゾーンに入った。目先のこの数値はカールアップを始めて反転する可能性がある。

５．テクニカル下値支持線および上値抵抗線

週間下値支持線は 23,614～23,620、**23,535～23,558**、及び 23,211～23,298 に存在している。**週の引け値が 23,535 を下回れば弱気**、週の途中で下回っても、週の引け値で **23,558** を上回れば強気トリガー。

週間上値抵抗線は 23,749～23,755、**23,840～23,863** 及び 25,041 に存在している。**週の引け値が 23,863 を上回れば強気。**ただ週の途中で上回っても、週の引け値で **23,840** を下回れば弱気トリガー。

週間トレンドインディケーターポイントは現在 **23,484**。今週、引け値でこの値位置を上回ると、基調は“ニュートラル”から“上昇トレンド”へと格上げされよう。

強気クロスオーバーゾーンは依然として 23,002～23,142、**21,977～22,192**、21,320～21,570、19,751～20,073、19,469～19,661、18,771～18,972、15,546～15,882、14,919～15,779、14,813～14,919…に存在。これらはサポートゾーンとして機能している。

弱気クロスオーバーゾーンは現在存在していない。従って既に破られている 23,481～23,685（先週の安値はこのゾーンで維持されていた）、**21,852～22,114**、16,740～16,816、16,069～16,347、14,813～15,204 は現在、有力なサポートゾーンとして機能している。

当レポートでは以前から注意すべきポイントとして、上記のサポートゾーンが **21,977～22,114** の値位置で重複しているという点を指摘。“ひょっとすると、目先の相場はこの重複水準に向かっているのかも知れない”と述べていたが、２月３日の 22,775 でサポートされていなかった場合、目先の相場はこの重複水準に向かう可能性がある。

６．今週のストラテジー

ポジショントレーダは現在ショート。前回のレポートと同様に今週も 24,116 以上の引け値にストップロスを入れて、この売りポジションを保持しておきたい。

一方、積極的トレーダはショートからストップアウトしてフラットであったが、先週のレポートで“…24,000±100 付近で再度売り参入を図りたい。…その際、ストップロス水準は 24,116 以上の引け値に入れておく”とアドバイスしていたので売り参入が出来ている。今週は、上記のストップロスを踏襲してこの売りポジションを保持。その上で、目先はどのような相場展開になるかを見極めたい。

MMA Report は、メリマン氏独自の視点から分析し、情報提供を目的に作成されております。投資の最終判断は御自身の責任で行なうようお願い申し上げます。